

事例5 ラウンドシステムの事例

ラウンドシステムについて

ラウンドシステムとは、教科書を1年間に4～5回繰り返す指導法である。通常の授業では、教科書を順に学んでいくが、ラウンドシステムの授業では、2～3カ月を目安に、ラウンドごとに5つの領域の重点化を図り、全単元を何度も繰り返しながら授業を展開する。

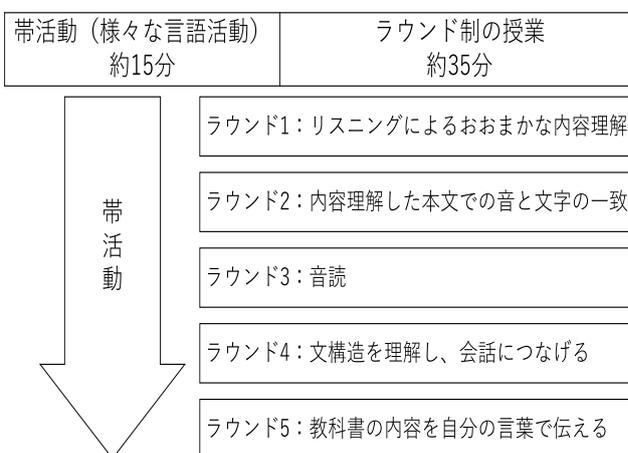
また、「教科書の学習」と「リアルな使用場面」の2つのバランスを意識して授業を行っている。到達目標や定着状況を逐次モニター・分析し、生徒の英語力に磨きをかけていく。ストーリーテリングをはじめ、「人ごと」について話したり、書いたりする活動が多くなりがちであるが、実生活の中では、物事を「自分ごと」として捉え、「自分の思いや考え」を発信していくことがとても重要である。生徒が自分と向き合い、英語で自分を語れる時間を設けることを意識したい。

1年間の授業の流れのイメージ



ラウンドシステムの授業の構造

ラウンドシステムの授業では、単に教科書を繰り返すだけではなく、各ラウンドの目的に見合った帯活動を設定している。ラウンドで繰り返し触れてきた表現を帯活動で使用したり、帯活動で学んだ内容をリテリングで活用したりするなど、言語面と内容面について行ったり来たりしながら授業を展開する。多量の「繰り返し学習」と「意味内容に気づかせる」ことを両立させて基礎的な英語の定着を図った指導法であり、学習指導の工夫改善の1つである。



各ラウンドの基本的な枠組み

○ラウンド1 【リスニングによるおおまかな内容理解】

ストーリーのおおまかな内容理解を音声で行う。話の細部や単語、文法といった点ではなく、話の概要や流れをつかむ。様々なリスニングの仕方を提示して、何度も聞かせることを徹底する。ピクチャーカードの並べ替え等の活動を通して、話の概要、登場人物の心情や場面設定等の理解を深めていく。イラストを正確に並べかえることよりも、教師と生徒のやりとりを中心に話を類推し、自然と多くの量の英文を聞く習慣をつけることが大切である。

○ラウンド2 【内容理解した本文の音と文字の一致】

おおまかに理解したストーリーの音と文字と一致させる。教科書の本文を順不同に並べ、聞こえた順番に並べかえる活動を中心に行う。音声と文字を一致させるとともに、「いつの間にか、10回も聞いていた」という状況を作り出すことが、このラウンドでは大切である。

○ラウンド3 【音読】

今まで音声で理解を深めてきたストーリーを、教科書本文を見ながら音読する活動を中心に行う。単調な音読にならないように工夫をしながら取り組む。ここでも生徒への狙いはインプットであるため、音読のポイントや手段を変えながら、何度も練習を重ね、教科書の本文に触れる。並行して、本文を書き写す活動もこのラウンドから取り入れていく。

○ラウンド4 【文構造を理解し、会話につなげる】

聞き取った音声をもとに、英文に設けられた空欄を埋めながら音読を行う。名詞や動詞、重要表現など意図的に空欄をつくり、文の構造や言語形式に意識を向けさせる。使用するワークシー

トは、空欄の位置や並べ替えの文量を調整し、複数の難易度を準備する。

○ラウンド5【ピクチャーカードを使用し、教科書の内容を自分の言葉で伝える（リテリング）】
教科書のストーリーを自分の言葉で伝える（リテリング）活動を行う。これまでに何度も聞いたり、音読したりしてきた内容や表現を生かしながら、教師と生徒、生徒同士のやり取りの中で、新しい表現にも触れさせる。相手に話した内容は、ノート等にまとめ、「オリジナルテキスト」としてライティングの活動に位置付ける。

○学年 第1学年

○主な領域 「話すこと[発表]」

○事例のポイント

- ①教科書の内容を自分の言葉で説明する（Round 5）活動を、本単元の中心の課題とする。
- ②言語面と内容面のバランスを意識しながら、教師と生徒、生徒同士のやり取りを行う。
- ③本文の内容や登場人物の心情を、生徒自身のこととして捉えさせ、表現する機会を設ける。
- ④ICT端末でお互いの発表の様子を録画する。発表内容を録画し見返すことで、発話の様子を客観的に確認し、相手に分かりやすく伝えるにはどうすればよいか、考えさせる。

1 単元名 Unit6 *Cheer Up, Tina* (Here We Go! English Course1 光村図書)

※Round 5（教科書の内容を、自分の言葉で説明する）

2 単元について（略）

3 生徒の実態について（略）

4 単元の目標（※本資料では、Round5 Unit6のみを単元として捉えている）

教科書本文の内容を、自分の言葉で聞き手にも分かりやすく伝えることができる。

- ・新出文法の特徴やきまりを理解し、これらを用いて発表する技能を身に付けている。〈知識及び技能〉
- ・教科書の内容や日常的话题について相手に紹介するために、登場人物の心情や考え等を理解し、それらを活用して表現し伝えている。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・教科書の内容や日常的话题について相手に紹介するために、登場人物の心情や考え等を理解し、それらを活用して表現し伝えようとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

5 単元の評価規準

（本単元における、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やりとり]」「書くこと」については、目標に向けての指導は行いが、本単元内で記録に残す評価は行わない。）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [発表] (発)	<p><知識> 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p><技能> 教科書の内容や日常的话题について、これまでに触れてきた語彙、表現、基本的な文法を活用して話す技能を身に付けている。</p>	教科書の内容や日常的话题について相手に紹介するために、登場人物の心情や考え等を理解し、それらを活用して表現し伝えている。	教科書の内容や日常的话题について相手に紹介するために、登場人物の心情や考え等を理解し、それらを活用して表現し伝えようとしている。

6 Round 5における各 Unit の指導計画

時	◆ねらい ○活動	評 価			
		知・技	思・判・表	態	◎評価規準<評価方法>
1	◆単元の目標を理解する。 ◆登場人物の情報や話の概要を理解し、イラストを用いて教科書の本文を自分の言葉で伝える。				
	○これまでに繰り返し触れてきた語彙や表現を活用しながら様々なトピックについて話す。 ○教科書のイラストを活用し、自分の伝えたい内容を相手にわかりやすく伝える。 ○生徒の発話内容から、言いたいのに言えない表現をクラス全体で共有する。				◎評価規準<評価方法>
2 本 時	◆登場人物の情報や話の概要を理解し、イラストを用いて教科書の本文を自分の言葉で伝える。				
	○これまでに繰り返し触れてきた語彙や表現を活用しながら様々なトピックについて話す。 ○前時のリテリングで学んだ内容を活かし、より良いリテリングを作成する。 ○ICT端末に音声入力をした英語を聞き返し、加除修正しながらまとめる。				◎評価規準<評価方法>
※教科書のそれぞれの Unit を、上記のように1～2時間で指導する。					
後 日	パフォーマンステスト・ペーパーテスト ※Round 5 のまとめの活動として実施する。	発	発	発	◎新出文法の特徴やきまりを理解している。 ◎教科書の内容や日常的な話題について相手に紹介するために、登場人物の心情や考え等を理解し、それらを活用して表現し伝えている。 ◎教科書の内容や日常的な話題について相手に紹介するために、登場人物の心情や考え等を理解し、それらを活用して表現し伝えようとしている。

伝えたい内容について

ここでは、ストーリーの概要や教師と生徒や生徒同士のやりとりの中で触れてきた話題や自分自身のことを示す。

「評価についての考え方」

生徒は各 Unit で自分が話したリテリングの内容を記録している。そのため、生徒の表現や学習状況を把握し、学習改善や教師の指導改善に生かすことは毎時間行う必要がある。活動させているだけにならないよう十分留意する。

7 本時の展開

目標 登場人物の情報や話の概要を理解し、イラストを用いて教科書の本文を自分の言葉で伝えることができる。

準備 ワークシート、振り返りカード

○本時の展開 (2 / 2)

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導 入 10 分	○挨拶をする。 ○日常的な話題を中心に、教師と生徒、生徒同士でやり取りをする。 事例のポイント③ 教科書の題材や生徒の身近な話題を中心にやり取りをする。	・全体で挨拶をする。 ・その日の授業の流れをあらかじめ黒板に提示しておく。 ・題材の内容として、学校行事や学校生活について触れる。 ・一部の対話をしている生徒だけにならないよう、生徒のつぶやきを拾いながらクラス全体を巻き込んで指導するように配慮する。

編 P140 指導計画
作成の留意点(3)

	<p>教師と生徒の対話例</p> <p>JTE : What do you want for Christmas, S1?</p> <p>S1 : I want comic books.</p> <p>JTE : Oh, you like reading comics. How about you, S2?</p> <p>S2 : Mm..., I have no idea.</p> <p>JTE : I see. How about Nick from the textbook? What does he want for Christmas?</p>	
<p>展 開 35 分 (分)</p>	<p>○ペアで会話をし、お互いの意見や考えを共有する。</p> <p>○会話した内容をノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で生徒の発話の状況を確認し、英語を話す手助けをする。 ・ノートにまとめる際は、スペルや文構造の間違いを気にせず、できるだけ多くの内容を書き出させる。
	<p>○ストーリーの内容を振り返る。(3)</p> <p>○ストーリーの内容について、教師と生徒でやり取りをする。(5)</p> <div data-bbox="255 750 734 1008" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント② (言語面の指導)</p> <p>前時の良い表現等をほめる</p> <p>①言いたいのに言えない表現を知っている言語材料で言いかえる。</p> <p>②文構造 (語順) を視覚化する。 (生徒の発する語句を語順に並べる)</p> <p>③1語 2語の言葉を文にする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の音声聞き直したり、個々に音読をしたりしながら、ストーリーを確認させる。 ・ピクチャーカードを活用し、視覚的に内容確認を支援する。 ・内容をよりよく伝えるための表現を確認し、電子黒板等で共有する。 ・言いたかったのに言えなかった表現や、共通してみられる誤りを取り上げたりして、言語面の指導を行う。 ・教科書の内容だけではなく、登場人物と生徒自身を結びつけるような発問を工夫する。
	<p>○ペアでリテリングを行う。(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のリテリングから、参考となる表現を意識して聴くよう促す。
	<p>○ピクチャーカードをもとに、自分が伝えたい内容を整理する。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文から、自分のリテリングに活用できそうな表現に線を引かせる。 ・引いた文をそのまま使用するのではなく、自分のリテリングに合った表現に言い換えさせる。 ・言いたくても言えなかった表現を教科書の本文等から気づかせる。
	<p>○相手を変えて、再度ペアでリテリングを行うことを繰り返す。(複数回実施する)(10)</p> <div data-bbox="255 1456 782 1579" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント①</p> <p>相手の内容を受け止め、自分のリテリングに活用できる表現を取り入れるよう促す。</p> </div> <p>○自分が話した内容を I C T 端末に音声入にする。(2)</p> <p>○自分の伝えた内容の動画をもう一度聞き返し、言いたかったけれど言えなかった内容等を再度確認する。(個人・ペア)(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リテリングの時間は、生徒の様子を見て、調整する。 ・リテリングに活用できそうな内容・表現を教科書から探し、線を引かせる。 ・内容を効果的に伝えている表現や共通してみられる誤りを板書で共有し、内容面、言語面の両方から指導をする。 ・記録に残す評価は行わないが、教科書の内容や日常的话题について相手に紹介するために、登場人物の心情や考え等を理解し、それらを活用して表現し伝えようとしているか観察し、次時の指導に生かす。 ・生徒の発表や音声入力した英語をモニタリングし、共通の誤りやよい表現を全体で共有し、学習改善につなげる。
	<div data-bbox="255 1937 782 2083" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント④</p> <p>発話の様子を客観的に確認し、相手に分かりやすく伝えるにはどうすればよいか、考えさせる。</p> </div>	

編 P140 指導計画作成の留意点(1)

編 P140 指導計画作成の留意点(2)

	○リテリングの内容をワークシートに書く。 (5)	・文構造を気にせず、短い時間で量をなるべく多く書くよう促す。
まとめ 5分	○Round5 Unit6 を振り返り、学んだことを書く。 生徒の振り返りから、生徒がもっと学びたいと思っていることや、分かったこと、分からなかったこと、生徒の学び方の良い点等を把握するとともに、生徒の学習の様子を振り返り、その結果を授業改善等の取組につなげる。	・振り返りカードに、相手に分かりやすく自分の伝えたい内容が伝えられたかという視点で書かせる。
	○挨拶をする。	・全体で挨拶をする。

パフォーマンステスト例

主に「思考・判断・表現」を評価する問題例

「話すこと（発表）」における「思考・判断・表現」を評価するパフォーマンステストとして、授業内で取り組んできたリテリングを実施する。単なる記憶力のテストにならないよう、目的や場面、状況を明確に示すことが重要となる。

(1) 内容

これから入学してくる新1年生へ教科書の内容を紹介するために、ストーリーの展開や登場人物の心情、自分の考え等を整理し、まとまりのある文章で発表する。1人あたり、1分30秒以内で行い、発表の際は、映像に記録をする。

(ア) 採点の基準

条件1：ストーリーの概要や要点について自分の言葉で述べている。
条件2：ストーリーの場面や状況について自分の言葉で述べている。
条件3：登場人物の心情やストーリーに対する自分の考え等を述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	3つの条件を満たして発表している。	3つの条件を満たして発表しようとしている。
b	誤りが多く、単語レベルでの英文を用いて話している。	3つの条件のうち、条件1、2を満たしている。	3つの条件のうち、条件1、2を満たそうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

評価の観点として、「発音」「イントネーション」「情報量」「話のわかりやすさ」「アイコンタクトなどの発表態度」など、上記の採点基準以外にも、教師が授業で大切にしてきたことを確認することも可能である。

〈参考〉

子供たちと目標を共有し、事前に次のような評価の基準表（ルーブリック）を提示することで、子供たち自身の主体的に学習に取り組む態度の向上に役立たせることができる。

生徒に示すルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	3つの条件を満たして発表している。	3つの条件を満たして発表しようとしている。
b	誤りが多く、単語レベルでの英文を用いて話している。	3つの条件のうち、条件1、2を満たしている。	3つの条件のうち、条件1、2を満たそうとしている。
c	もう一度ストーリーを読み直し、重要なキーワードや表現等を確認する必要がある。	もう一度ストーリーを読み直し、展開や場面、状況等を確認する必要がある。	もう一度ストーリーを読み直し、展開や場面、状況等を確認する必要がある。

(イ) 本問題の特徴

- ・目的や場面、状況等を明確に設定し、Round を通して指導してきたこと（教科書の内容や日常的な話題について、まとまりのある文章で伝えること）を踏まえた問題である。
- ・英語の正確性も大切であるが、習得した知識や経験を生かし、目的や場面、状況に応じて、自分の考えや気持ちなどを適切に表現することを重視している。
- ・知識・技能について、採点の基準を設けているが、あくまでも評価の参考とする。今回のパフォーマンステストでは、生徒たちが伝える発話の量や内容を重視しているためである。

Round 1 から Round 4 までの展開案

本時の展開【Round 1】

目標 登場人物の情報や話の概要について話されている英文を聞くことや仲間とのやり取りから情報を整理し、教科書の場面絵を並べ替えることができる。

準備 ワークシート、振り返りカード

○本時の展開（1 / 1）

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 20分	○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で挨拶をする。 ・その日の授業の流れをあらかじめ黒板に提示しておく。 ・題材の内容として、学校行事や学校生活について触れる。 ・一部の対話をしている生徒だけにならないよう、生徒のつぶやきを拾いながらクラス全体を巻き込んで指導するように配慮する。
	○Small Talk をする。 日常的な話題を中心に、教師と生徒、生徒同士でやり取りをする。	
	<p>教師と生徒の対話例</p> <p>JTE : Do you like Japanese food? S1 : Yes, I do. JTE : What Japanese food do you like? S1 : I like sushi. JTE : I see. How about you, S2?</p>	
	○ペアで会話をし、お互いの意見や考えを共有する。 ○会話した内容をノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で生徒の発話の状況を確認し、英語を話す手助けをする。 ・内容理解にねらいをおいた活動のため、ノートにまとめる際は、スペリングや文構造の間違いを気にせず、できるだけ多くの内容を書き出させる。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>中学1年生の初期では、文字を書くことに慣れていない生徒が多いと判断するため、積極的に書かせる指導は行っていない。生徒たちの発達段階に応じて、徐々に表現の幅を広げていく。また、ここでまとめた内容は、今後の Small Talk や Retelling の活動等でも再利用する。</p> </div>	
展開 25分	○教科書の扉絵や場面絵を使用し、教師と生徒でやり取りをする。	・扉絵や場面絵の情報から、自由に発想させ、ストーリーの核へとつなぐ。
	○ストーリーの内容について、音声を聞いて、イラストを並び替える。	・十分な input 量を確保するため、すぐに答えを求めず、何度も聞かせながら、徐々に内容理解を進める。（目標回数は生徒の反応に応じて変化する）
	○教師と生徒でやり取りをする。	・ペアでの関係づくりも大切にしたいため、ペアの発話をモニターし、生徒の気づきを拾って全体でシェアする。
	○なりきりスピーキングを行う。	・英語の音から状況をイメージし、内容理解へとつなが

	登場人物の1人になりきる。その人物の発話に注目して、聞き取れた単語や語句をシャドーイングのように発音する。	<p>っていくようにするために、特定の登場人物に意識を払いながら聞いたり話したりするよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語数や語句の長さは気にせずに取り組みせ、繰り返しながら発音できる単語等の数を増やしていく。
まとめ 5分	<p>○Round 1 Unit6 を振り返り、学んだことを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>生徒の振り返りから、生徒がもっと学びたいと思っていることや、分かったこと、分からなかったこと、生徒の学び方の良い点等を把握するとともに、生徒の学習の様子を振り返り、その結果を授業改善等の取組につなげる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに、教科書の本文を大まかに理解することができたかという視点で書かせる。
	○挨拶をする。	・全体で挨拶をする。

本時の展開【Round 2】

目標 聞き取れた英語の音と文字を一致させることで、教科書の本文の概要を理解することができる。

準備 ワークシート、振り返りカード

○本時の展開（1 / 1）

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 10分	<p>○挨拶をする。</p> <p>○Small Talk をする。 日常的な話題を中心に、教師と生徒、生徒同士でやり取りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で挨拶をする。 ・その日の授業の流れをあらかじめ黒板に提示しておく。 ・題材の内容として、学校行事や学校生活について触れる。 ・一部の対話をしている生徒だけにならないよう、生徒のつぶやきを拾いながらクラス全体を巻き込んで指導するように配慮する。
	<p>教師と生徒の対話例</p> <p>JTE : Do you have any plans for Golden Week, S1? S1 : Yes! JTE : Great! What do you want to do? S1 : I want to go to Nagano with my family. JTE : I see. How about you, S2? Do you have club activities?</p>	
展開 35分	<p>○ペアで会話をし、お互いの意見や考えを共有する。</p> <p>○会話した内容をノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で生徒の発話の状況を確認し、英語を話す手助けをする。 ・ノートにまとめる際は、スペリングや文構造の間違いを気にせず、できるだけ多くの内容を書き出させる。
	<p>○ストーリーの内容を振り返る。</p> <p>○ストーリーの音声を聞いて、文を並び替える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を見せながら生徒とやり取りをし、ストーリーを思い出させる。 ・音声を聞かせる前に音読をさせ、文字を見ながら語彙の音やストーリーの内容を予測させる。 ・十分な input 量を確保するため、すぐに答えを求めず、何度も聞かせながら、徐々に音と文字をつなげていく。（目標回数は生徒の反応に応じて変化する） ・活動させながら生徒の学習進捗をモニタリングし、必要に応じてパートで区切ったり、早さを調節したりなど、聞かせ方の工夫をする。 ・少ない回数で答えにたどり着いた生徒には、overlapping するように指示する。

	○なりきりスピーキングを行う。 登場人物の1人になりきる。その人物の発話に注目して、聞き取れた単語や語句をシャドーイングのように発音する。	・音読することが目標ではなく、あくまでもたくさんインプットをするための工夫の位置付けである。
まとめ 5分	○Round 2 Unit 6 を振り返り、学んだことを書く。 生徒の振り返りから、生徒がもっと学びたいと思っていることや、分かったこと、分からなかったこと、生徒の学び方の良い点等を把握するとともに、生徒の学習の様子を振り返り、その結果を授業改善等の取組につなげる。	・振り返りカードに、聞き取れた英語の音が文字と一致させることができたかという視点で書かせる。
	○挨拶をする。	・全体で挨拶をする。

本時の展開【Round 3】

目標 概要を理解した教科書の本文を繰り返し音読することで、英語の音と文字の一致についての理解をさらに深め、登場人物の心情を読み取ることができる。

準備 ワークシート、振り返りカード

○本時の展開（1 / 1）

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 10分	○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で挨拶をする。 ・授業の流れをあらかじめ黒板に提示しておく。 ・題材の内容として、学校行事や学校生活について触れる。 ・一部の対話をしている生徒だけにならないよう、生徒のつぶやきを拾いながらクラス全体を巻き込んで指導するように配慮する。
	○Small Talk をする。 日常的な話題を中心に、教師と生徒、生徒同士でやり取りをする。	
展開 35分	<p>教師と生徒の対話例</p> <p>JTE : Do you have any brothers, S1?</p> <p>S1 : No, I don't. I have two sisters.</p> <p>JTE : Oh, you have two sisters. Do your sisters play any sports?</p> <p>S1 : Yes. They play Kendo.</p> <p>JTE : Your sisters do Kendo! Do you practice Kendo, too?</p>	
	○ペアで会話をし、お互いの意見や考えを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で生徒の発話の状況を確認し、英語を話す手助けをする。 ・ノートにまとめる際は、スペリングや文構造の間違いを気にせず、できるだけ多くの内容を書き出させる。
	○会話した内容をノートにまとめる。	
	○ストーリーの内容を振り返る。	・本文の音声を聞き直したり、教師とやり取りをしたりしながら、ストーリーを確認させる。
	○教科書の本文を音読する。 ・様々な音読活動に取り組み、繰り返し本文を音読する。 【音読活動の例】 ①一語読み ②役割読み ③四方読み ④Read and Look Up ⑤背中合わせ読み ⑥アテレコ(実写に声を当てて読む) ⑦設定変更読み(登場人物の年齢や状況などの設定を変更して読む) など、音読が単調にならないように、教師は音読の引き出しを多く持っておきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を活用し、視覚的に内容確認を支援する。 ・まず生徒に読ませてみる。多少の難しさがあっても自ら取り組む姿勢を養うのと同時に、生徒自身にどこが読めないか自己分析させる。 ・読めない箇所については、文字と音が一致していないことが予想されるので、再度教科書の音声を聞かせ、音と文字の関係性や文脈から発音やイントネーションを意識し読むように促す。 ・活動させながら生徒の学習進捗をモニタリングし、必要に応じて発音指導するなど、状況に応じて学習の進行調整を図る。 ・登場人物の心情や意図を考える発問を通して、教科書の内容理解を更に進め、登場人物の感情や思いが伝わる音読を目指す。

	○Grammar Hunt を行う。 Unit 6 のストーリーを読み、語尾に-(e)s の付いた一般動詞を○で囲む。	<ul style="list-style-type: none"> ・意味、場面の分かった文章で新出言語材料の形に焦点を当てる。 ・教師の説明で始めず、生徒が文法規則に気づくきっかけを与える。
まとめ 5分	○Round 3 Unit 6 を振り返り、学んだことを書く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 生徒の振り返りから、生徒がもっと学びたいと思っていることや、分かったこと、分からなかったこと、生徒の学び方の良い点等を把握するとともに、生徒の学習の様子を振り返り、その結果を授業改善等の取組につなげる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに、登場人物の心情に寄り添いながら音読ができたかという視点で書かせる。
	○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で挨拶をする。

本時の展開【Round 4】

目標 本文の重要な語句や表現、基本文等に着目する音読練習を通して、教科書本文の理解を深め、文構造を意識して音読することができる。

準備 ワークシート、振り返りカード

○本時の展開（1 / 1）

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 10分	○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で挨拶をする。 ・授業の流れをあらかじめ黒板に提示しておく。 ・題材の内容は、学校行事や学校生活について触れる。 ・一部の対話をしている生徒だけににならないよう、生徒のつぶやきを拾いながらクラス全体を巻き込んで指導するように配慮する。 ・生徒の言いたくても言えない表現は、全体でその表現を考える。
	○Small Talk をする。 日常的な話題を中心に、教師と生徒、生徒同士でやり取りをする。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 教師と生徒の対話例 JTE : Last week, my daughter had <i>Gokabo</i> first time. She said "It's delicious." What do you think? Is <i>Gokabo</i> delicious? S1 : Yes, I do. JTE : Oh, you like <i>Gokabo</i>. How about you, S2? S2 : Mm..., I don't like <i>Kinako</i>. JTE : Oh! You don't like Soybean flour. Do you know any famous foods in Kumagaya? </div>	
	○ペアで会話をし、お互いの意見や考えを共有する。 ○会話した内容をノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で生徒の発話の状況を確認し、英語を話す手助けをする。 ・ノートにまとめる際は、スペリングや文構造の間違いを気にせず、できるだけ多くの内容を書き出させる。
展開 35分	○ストーリーの内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の音声聞き直したり、個々に音読をしたりしながら、ストーリーを確認させる。
	○ストーリーの内容について、教師と生徒でやり取りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を活用し、視覚的に内容確認を支援する。 ・教科書の内容だけでなく、登場人物と生徒自身を結びつけるような発問を工夫する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 教師の発問例 JTE : ○○(登場人物) wants a soccer ball for Christmas. Do you want a present? (Closed Question) What present do you want for Christmas? (Open Question) </div>	
	○穴あき音読シートの Side A ~ Side D を音読する。(ペア・個人)	<ul style="list-style-type: none"> ・「正しく読まなければいけない」という気持ちを持たせるのではなく、様々な読み方から内容や語順を理解しようとする意識を高める。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【穴あき音読シートの例】 Side A: 名詞や動詞、重要表現等を空欄にする Side B: 基本文や重要な表現を含む文等の語順を入れ替える Side C: ほぼすべての文を空欄にする（日本語訳のヒントあり） Side D: ほぼすべての文を空欄にする（日本語訳のヒントなし） </div>	

	○Side D を使用し、語順や内容を考えながらノートに本文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 音読してきた内容が、どれくらい理解しているかという視点で書かせる。 扱うシートは、生徒の実態に応じて変える。
	○示されたピクチャーカードの内容を、制限時間内にペアに伝える。(20~30 秒)	<ul style="list-style-type: none"> 即興でやり取りをすると、語句を選んだり整理したりすることに戸惑う生徒が多いため、まず語順を意識させたい。 教科書の場面絵を自分の言葉で話させ、次の Round (リテリング) につなげる。
ま と め 5 分	○Round 4 Unit 6 を振り返り、学んだことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードに、フレーズや文構造を意識して音読することができたかという視点で書かせる。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒の振り返りから、生徒がもっと学びたいと思っていることや、分かったこと、分からなかったこと、生徒の学び方の良い点等を把握するとともに、生徒の学習の様子を振り返り、その結果を授業改善等の取組につなげる。</p> </div>	
	○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 全体で挨拶をする。